

山間部に飛来するオオハクチョウ

藤巻 裕蔵

072-0005 美唄市東4条北2丁目6-1

2012年10月23日に新得町の十勝川上流部トムラウシにある北海道電力のトムラ調整池(ダム湖)を見る機会があったが、ダム湖の上流端の川が流れ込む浅瀬でオオハクチョウ13羽(成鳥8, 幼鳥5)を観察した。普通ハクチョウ類は平野部の水域に飛来し、山間部のダム湖に入ることはめったにないので、いささか意外であった。

そこで、これまでに記録しておいた北海道におけるオオハクチョウの観察記録をあらためて調べてみたところ、山間部での記録がいくつかあった。

上士幌 糠平ダム湖 1971年12月20日, 成鳥5A, 幼鳥2 (川辺百樹)

足寄 活込ダム湖 1978年3月7日

美瑛 聖台ダム湖 1979年4月11~15日, 4羽

南富良野 金山ダム湖 1980年12月20日, 1981年5月9日, 70羽

丸瀬布 武利ダム湖 1984年11月16日, 1 (北海道新聞)

阿寒 阿寒湖 1984年12月20日, 17羽 (橋本正雄)

新得 岩松ダム湖 1985年4月10日, 9羽

新得 十勝ダム湖(東大雪湖) 2009年4月26日, 38羽

以上の9例で、多くはダム湖で、自然湖沼は阿寒湖だけである。

今回の例を含め、10月が1例, 11月が1例, 12月が3例, 3月が1例, 4月が3例, 5月が1例で、1~2月を除いて北海道に滞在している全期間をとおして観察されている。観察例数は少ないものの、秋と春の渡り時期、厳冬期にも飛来している。

これらの記録を見ていて、疑問におもうのは、このような山間部へはどのようなルートでやってくるのかということである。まず考えられるのは川沿いである。阿寒湖は釧路川上流部、糠平、活込、岩松、十勝、トムラは十勝川推計上流部、聖台、金山は石狩川に合流する空知川水系上流部、武利は常呂川上流部である。釧路川と十勝川の河口は太平洋側、石狩川の河口部は日本海側、常呂川の河口はオホーツク海側にある。日本海側や太平洋側の河川では、春の渡りのとき川沿いに上流部に飛んで行くことがあってもおかしくないとおもう。しかし、秋の渡りのときには海岸沿いに南下す

る途中で、川の上流部に向かうには北上することになる。トムラ調整池は十勝川河口から百数十 km はある。もしかしたら、北から大雪山系を越えて直接飛来するのかもしれない。多くの場合、オオハクチョウはサハリンから北海道北部に入り、オホーツク海沿岸を通過して、北海道東部を南下し、太平洋沿岸を南西に向かうとされている。あともう一つのルートはオホーツク海側から北見～池田間の低地帯を通過して太平洋側に出るものである。高い山系を越えて渡るルートがあるのかどうかは、今のところはっきりしないが、十勝川上流部の上空を飛ぶハクチョウの群れを観察したとか、日高山脈を越えて飛んで行くのを観察したという話を聞いたことがあるので、山地上空を渡って行くルートをまったく否定はできない.. このようなルートがあるのかどうかを明らかにするのは今後の課題であろう。